

1. 阿賀野市の概要と沿革

阿賀野市は、県都新潟市の南東に位置し、地勢こうぼうは東に五頭山脈の稜線をもって阿賀町と接し、南及び西に阿賀の清流をめぐらして五泉市及び新潟市に面し、北に福島潟の一角を擁して新潟市及び新発田市と接し、東西19.1km、南北16.8km、面積192.72km²、うち東半分は山地、西半分は平野部となっている。

自然山水はすべて五頭山脈に源流を發し、東から西又は北西に向かって流れている。その主なるものは、北から折居川、大荒川、安野川、ツベタ川がある。ほかに人工用水路として、小松地先阿賀野川から取水し山裾を北上して新潟東工業港へと延びる阿賀右岸大規模用水の幹線及び支線、水路が管内殆どの農地を潤すとともに、農閑期でも大切な消防水利となっている。

道路網は、磐越自動車道が、市の南部を横断し、国道49号が中心部を貫いて、新発田・新潟を結ぶ国道460号と交差しており、更に国道290号が山沿いを走り五泉市へと延びている。

県道は、市街地から放射線状に、水原・出湯線、大室・水原線、新関・水原停車場線、新潟・長浦線等がある。

平成6年7月28日、磐越自動車道、安田インター・新潟中央インター間が、平成8年11月14日安田インター・津川インター間の供用開始、平成9年10月1日全線開通により新潟市はじめ県内外からの交通アクセスがより良くなった。なお、今はローカル化したJR羽越線新津・新発田間が平野部を南西から北東に走り、きょうがせ、すいばら、かみやまの3駅がある。

阿賀野市は、有史以来交通、経済、文化、軍事の要衝となり、徳川時代には幕府直轄の奉行所、代官所が置かれ、廃藩置県前後の明治2年に越後府が置かれ、水原県となりやがて新潟県と変遷したことから、新潟県政発祥の地であるという自負もあり、平成7年8月には水原代官所が復元された。

市内の安田地区、笹神地区、京ヶ瀬地区は支配系統の異なる新発田領であったが、日常生活、経済活動に最も密接な水原地区の市場を中心に共同生活圏が生成され一体感が培われ今日に至っている。

これらを背景として昭和41年4月旧町村及び消防機関の協議会の総会において広域消防早期実現の決議がなされ、この方針に則り、県の助言指導を受けながら事務担当者から消防機関、町村執行部、議会へと段階的に広く研究協議を重ね、紆余曲折の末、昭和45年10月1日から救急業務を旧水原町に委託する方法により開始し、昭和48年4月1日一部事務組合が発足し、常備消防だけではあるが一体化が実現した。その後昭和54年4月1日、阿賀北広域組合水原郷消防本部が発足する。

平成16年4月1日、水原町・安田町・笹神村・京ヶ瀬村が町村合併し、阿賀野市が誕生したことにより阿賀野市消防本部となり現在に至る。